

美郷町と 雅楽の魅力

宮崎県の東臼杵地域にある三つの村、旧南郷村・旧西郷村・旧北郷村がひとつになって誕生した「美郷町」。ヤマメの放流も行う清らかな河川と、九州山地に連なる山に囲まれた自然豊かなこの町が、本公演の開催地だ。



6月中旬、出演者の真鍋尚之さんを迎えて美郷町を訪れた。あいにくの雨だったが、車窓から見える山あいはいつすらと霧がかり、しっとりとした美しさがあった。南郷地区に入ると、「百済の里」という案内標識が出てくる。この南郷には、古くから語り継がれてきた「百済王族伝説」が残っている。1300年前、朝鮮半島の古代国家「百済」が滅んだ際、日本に逃れた百済の王族がこの地に移り住んだというものだ。南郷は、この伝説をもとに「百済の里づくり」を行い、「百済の里」として親しまれるようになった。

本公演の会場「西の正倉院」も、「百済の里づくり」の一環で建築されたものだ。計画から10年の歳月を経て、平成8年に完成。現在では、美郷町の観光スポットとなり「存じの方も多いと思うが、「西の正倉院」は奈良の「正倉院」のレプリカ建築で、宮内庁等の協力を得て、門外不出とされてきた「正倉院」の原図をもとに忠実に再現された。

なぜ、美郷町に「正倉院」のレプリカを？と思う方もいるだろう。無論、「百済王族伝説」が関係している。「西の正倉院」の隣にある神門（みかど）神社には、百済王の遺品と云われる伝世品が複数残されている。中でも銅鏡は、「正倉院」の宝物《唐花六花鏡（花びらが6枚ある形をした青銅製の銅鏡）》と同一品であると判明。これが、「西の正倉院」が整備されるきっかけとなった。

さて、宮崎市から南郷地区まで約100キロ。朝から降り続いていた雨も「西の正倉院」に着く頃には小雨になっていた。入口の門をくぐると、目の前に高床式造りの大きな建物が堂々と姿を現す。真鍋さんは、しばらく空間全体を眺めていたが、気づけば敷地のあちこちで声を出し、音の響き方を確認していた。帰りの道中、「西の正倉院」と初対面を果たした感想を聞いてみると、「思っていたよりも3倍は大きかった」と返ってきた。これまで遺跡や公園などでも演奏会を実施してきた真鍋さんは空

間演出にもこだわらる。静かに微笑むその横顔は、「西の正倉院」の空間をどう料理しようかとワクワクしているように見えた。

今回の公演は、舞を伴わない合奏のみの雅楽だ。「吹物（ふきもの）」といわれている筍、篳篥（ひちりき）、笛の3種類の管楽器によるアンサンブルを、真鍋さんが代表を務める「NOYUKI NAMBE GAKU Ensemble」（以下NMG E）の演奏でお楽しみいただく。真鍋さんは、プログラムの

『調子』について、「当時はたぶん、楽器のコンディションを見るようなものだった。それぞれ楽器にメロディーがあっても、一斉に演奏するところがちゃちゃしてよくわからない。同じ旋律を追いかけるように吹いても、面白いことをしているも伝わらない」と話す。

NMG Eでは、雅楽の音楽的な要素を抜き出して再構成する新しい試みに、ここ数年取り組んでいる。『調子』においても、旋律の輪郭をはっきりさせるように再構成し、各楽器の魅力が伝わりやすくしているのだ。真鍋さん曰く、「奏するだけで楽器紹介になる」という「調子」。ぜひ、それぞれの楽器の魅力を味わってほしい。

日本古来の音楽と思われている「雅楽」だが、そもそもは朝鮮半島や中国大陸から渡ってきたもので、時代の流れの中で日本古来の儀式音楽や舞踊などと融合し、日本独自の様式に整えら

れてきた。「雅楽には、先人たちの知恵や感覚がたくさん詰まっている。そこが雅楽の魅力」と真鍋さんは語る。

平安時代の雅楽には、遊び心のある面白い演奏形態があるらしい。特殊な演奏法「残楽（のこりがく）」を例に挙げて教えてもらった。「残楽」というのは、全員合奏で繰り返し演奏する中で、少しずつ楽器の種類が減っていくという演奏形態で、はじめに

打楽器、次に笙、笛、琵琶が抜けていき、最後は箏と篳篥による掛け合いになる。箏はまるでアドリブの様な技巧的で変化に富んだ演奏を披露し、篳篥は全部のメロディーを歌わず歯抜けの旋律を演奏するのだとか。「平安時代の雅楽は遊び心があって、いろんな楽しみ方をしてきたはず」と確信する真鍋さん。そんな遊び心も伝統になっている雅楽だからこそ、1300年の伝統を守り継承しながらも新しい伝統をつくっていくのではないかと；そんなお話だった。NMG Eの心意気は、美郷町の「百済の里づくり」と少し重なる。百済王族伝説から「百済の里づくり」を行い「西の正倉院」まで建築した美しい「西の正倉院」

「平成の文化財である西の正倉院での演奏は、新しい伝統という部分でもマッチしている」といふ真鍋さんの言葉にも、大きく頷けた。

いまでは、結婚式や神社で演

奏されることの多い「雅楽」。どんな音楽なのか理解しようとするのが難しいと感じてしまうかもしれないが、何も考えずに聴くと不思議と耳に心地よい。日本人が美しいと感じる自然や四季の移ろいと同じように、雅楽の音色を奏しお心も、日本人のDNAに刷り込まれているのではないかと思ってしまう。当日は、雅楽の音色とともに、木の葉が風に揺れる音や鳥の声なども一緒に聞こえてくるかもしれない。公演の楽しみ方は百人百様。平安絵巻に描かれている貴族になったつもりで聴くもよし、百済王族伝説に思いを馳せるのも「西の正倉院」ならではの楽しみ方かもしれない。

真鍋さんは言う
「リラックスして聴いてもらえば、素直に入ってくる音楽」だ
と。
ぜひ、西の正倉院の景観とともに、波のように押し寄せる雅楽の音色に身を任せ、ゆったりと優雅なひとときを過ごしてほしい。



楽器紹介

雅楽で演奏される管楽器をご紹介します。
1000年以上前からほとんど形を変えずに現代まで受け継がれている楽器です。

==== 古代から、笙、箏、横笛は、それぞれ「天・地・空」を表現する楽器といわれています。====

天 天から差し込む光
しょう 笙

独特のかたちをしているが、伝説上の鳥「鳳凰」が翼を休めている姿に見えることから「鳳笙」ともいわれる楽器だ。17本の竹を円く束ねたような形で、そのうちの15本の竹の根元に金属のリードがついている。息を吹いたり吸ったりすることで、リードが振動して音がなり、一人で和音を奏でることができる。



地 地上にこだまする声
ひちりき 箏

18cmほどの竹管に、箏を削って作ったリードを差し込み、息を吹き入れて音を出す縦笛。表に7つ、裏に2つの指孔があり、押さえている指を変えることなく口の圧力でなめらかな抑揚をつけながら音程を変えることができる「塩梅（えんばい）」という奏法が特徴。



空 天と地の間、空を泳ぐ龍の鳴き声
おうてき 横笛

横笛は龍笛（りゅうてき）とも呼ばれ、竹製の笛で、息を吹き入れる歌口の他に7つの指孔がある。息の使い方によって、2オクターブの音域を出すことができ、箏よりも音域が広いので、合奏の中では箏の旋律にまことわりつく。



まめ知識

一見、遠い存在に感じられる「雅楽」ですが、実は、わたしたちが日常使っている言葉には、雅楽を由来とするものがあります。

- 打合せ**
[意味] 前もって相談すること、下相談すること。
打物(うちもの)とは、打楽器のこと。かつて京都・奈良・大阪の楽所(合わせて三方楽所)が集まって演奏する際、細かな演奏法の違いを調整するために、まず打楽器から約束事を決めていた。
- 音頭をとる**
[意味] 人の先頭に立って、物事をすること。
合奏において、管楽器の首席(トップ)奏者を音頭(おんど)といい、首席で演奏することを「音頭を取る」という。
- ろれつが回らない**
[意味] 舌が滑らかに動かないために話しく、言葉が不明瞭になること。
雅楽の調子には、「呂(りょ)」と「律(りつ)」があり、「呂」と「律」の音階を間違えると演奏がおかしくなることから、音の調子があわないことを「呂律がまわらない」と表現するようになった。
- コツをつかむ**
[意味] 物事の要点を把握し核心を外さないように扱うさま。要領を得た様子。
笙の17本の竹には、それぞれ「千・十・下・乙・工・美・一・八・也・言・七・行・上・九・名・毛・比」という名前が付けられていて、「乙(こつ)」という音は左手薬指の正しい位置にあるため押さえるのが難しい。乙を押さえることができれば吹けるといいう意味から、「コツをつかむ」の語源になった。

公演情報 「西の正倉院で聴く雅楽」～奈良・平安時代へタイムトリップ

10月21日(土) 13:30開場 14:00開演 *約90分公演

[会場] 西の正倉院(屋外敷地) / 雨天時:南郷支所隣接 多目的ホール

[チケット料 金] <全席自由> 500円 (4歳からご入場いただけます。)

[出演]

Naoyuki MANABE GAGAKU Ensemble

笙:真鍋尚之、永井大志 箏:國本淑恵、春日るり子

笛:太田豊、岩崎達也 ※チラシの出演者から一部変更あり

司会:前田晶子

[プログラム]

《調子》双調(笛) 黄鐘調(箏) 平調(笙・箏・笛) 盤渉調(笙)

管絃吹(春庭楽)

神楽歌より ほか



主催・問合せ先:公益財団法人宮崎県立芸術劇場 TEL.0985-28-3208 <https://mizayaki-ac.jp>

後援:美郷町教育委員会、一般社団法人美郷町観光協会 協力:美郷町

GAGAKU
西の正倉院で聴く
雅楽
奈良・平安時代へタイムトリップ
10/21(土) 14:00 開演
会場:西の正倉院(屋外敷地)
雨天時:南郷支所隣接 多目的ホール

10月に開催する雅楽公演。
会場は、美郷町の南郷地区にある観光スポット「西の正倉院」です。
せっかく美郷町に来たなら、近くの観光名所や特産品も要チェック！
思い出しへいりや土産に、ぜひお立ち寄りください。

美郷町へ行くこう！
コンサートの前後に
ちよっと寄り道♪



01 南郷温泉

○西の正倉院から
車:約1分 / 徒歩:約6分

町内外から人が集まる
人気の温泉！



地下 1500mから湧き上がる温泉は、ナトリウム硫酸水素塩を誇る抜群の泉質で、肌に優しく、全国有数の「美肌の湯」として知られています。
山々の景色を望みながらの露天風呂は、最高の贅沢です。

02 恋人の丘

○西の正倉院から
車:約6分

南郷地区の集落を見渡せる
スポット！



六角形の東屋は、韓国「扶餘」(ぶよ)の落花岩に建つ「百花亭」を再現。友好の証である「緑の鐘」があり、恋人、親族などで鐘を鳴らすと、絆がより強くなるといわれています。雲海が一望できるスポットとしても人気です。

03 春夏秋冬いっつもや

○西の正倉院から
徒歩:約3分

美郷町の特産品を買うなら
ココ！！



地元の生産者や町内加工グループの方たちが、美郷町の新鮮な農産物や加工品を出品している生産者直売所です。公演を開催する10月は新米の出荷時期！ぜひ、のぞいてみてください。

04 百済の館

○西の正倉院に隣接
徒歩:すぐ

韓国に来たかと錯覚する
かも!?



韓国の古都「扶餘(ブヨ)」の王宮跡に建つ、(元)国立博物館の「宮舎」をモデルに、日韓交流のシンボルとして建てられた百済の資料館。瓦や敷石は韓国からとりよせ、屋根の反り回りや色使いがとても鮮やかで美しい。

「西の正倉院」周辺MAP

…本公演のチケット販売中

